ティーチング・ポートフォリオ

**大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：本村 香　作成日：2025 年 12 月 27 日**

## １．教育の責任

成人期は身体の生理的状況が安定し心身ともに充実している時期である一方で、加齢により様々な機能が緩やかに衰退し始める時期にあります。また、仕事や家庭および地域において社会の一員としての役割と責任を担う時期にあります。成人看護学では、このような成人期の発達課題や特徴を踏まえ、健康障害を持つ対象者の病態や治療過程の理解だけでなく、健康障害を持つ対象者の生き方を尊重した看護が実践できるよう授業、実習を展開しています。

## ２．教育の理念

国際看護学部の学びの特色である、「学士力」「実践力」「国際力」を備えた学生の育成することを基盤に、対象者の健康問題と多様な社会背景や価値観、生き方を理解するための学習行動を身につけ、対象者に沿った看護を主体的に学ぶことを支援しています。

## ３．教育の方法

授業は、対象者の身体的側面にあたる疾患、病態生理の理解を再度深め、その知識をふまえて疾患が対象者の生活や家族、社会的役割に及ぼす影響を統合的に理解できるよう構成しています。そして、成人期の特徴や社会的役割、生活背景を含めたケースを用いて病期の段階に応じた看護を考える授業を行っています。また、成人期にある患者を具体的にイメージ化できるよう視聴覚教材なども取り入れ、「生活者としての患者」を捉える視点の育成を図っています。

臨地実習においては、実習前に疾患の理解と生活背景を統合したアセスメントの準備を行い、主体的な学習行動がとれるよう支援しています。実習中は、患者の生活史や価値観、家族背景、退院後の生活を見据えた看護を実践的に学び、多職種連携を通して「社会の中で生きる一人の人」として対象者を総合的に理解できるよう支援しています。また、対象者や臨床指導者と援助的人間関係を成立し発展させることができるよう努めています。

## ４．教育の成果

授業においては、視聴覚教材や体験的学習を取り入れることで、対象者の身体的苦痛や社会的・心理的側面への理解を促すことができたと考えます。一方で、学生が困難を感じやすい病態生理の理解や、それを看護へとつなげる思考過程については、授業後に学生から質問を受けることがありました。このことから、学生がより理解しやすい内容構成や表現方法、用語の工夫が必要であると考えています。実習においては全学生ではないものの、臨床指導者のご協力のもと、病態生理や看護の根拠を踏まえた看護計画の立案と実践、さらに退院後の生活を見据えた教育的支援を行うことができました。

## ５．改善への努力と今後の目標

授業においては、学生が苦手とする病態生理やそれを看護へつなげる思考過程について、理解しやすい説明方法や授業内容の工夫が今後の課題です。

また実習では、知識と実践が結びつく学習支援と、経験を振り返り、気づきや学習課題を整理し臨地実習での実践による学びの強化を図ることが課題です。

**【添付資料】**